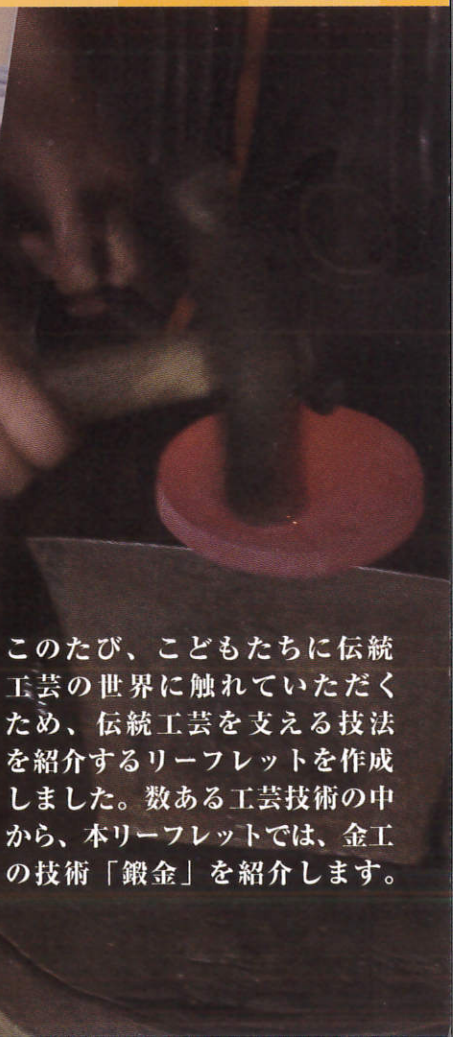




たんせつこううつわ  
「鍛接合器」

# 伝統工芸のわざ『<sup>たん</sup><sup>きん</sup>鍛金』



このたび、子どもたちに伝統工芸の世界に触れていただくため、伝統工芸を支える技法を紹介するリーフレットを作成しました。数ある工芸技術の中から、本リーフレットでは、金工の技術「鍛金」を紹介します。





金槌と木槌

「金工」とは、金属を使って作る工芸品のことです。硬くて丈夫な金属を思い通りの形に作るため、長い年月をかけてさまざまな技法が生み出され、現在に伝えられています。金工には、「<sup>きんこう</sup>鑄金」、「<sup>ちゅうきん</sup>鍛金」、「<sup>たんきん</sup>彫金」の三つの技法があります。

今回ご紹介する「<sup>たんきん</sup>鍛金」は、金属の塊や板を、<sup>かなづち</sup>金槌や<sup>きづち</sup>木槌でたたいてのばしたり、<sup>しほ</sup>曲げたり、<sup>しほ</sup>絞ったりして作品をつくる技術です。材料となる金属（<sup>じがね</sup>地金）を非常に高い温度の炎で熱することでやわらかくし、<sup>かなづち</sup>金槌でたたいてのばします。たたくと次第に硬くなるので、また高い温度の炎で熱してやわらかくして、たたきます。何千回、何万回とたたき、金属をのばしたり、<sup>しほ</sup>絞ったりして、形を作っていきます。

<sup>みよしまさとよ</sup>三好正豊さんは、<sup>たんきん</sup>鍛金の非常に高い技術を持つ、大阪府を代表する金属工芸作家です。  
三好正豊さんの作品の制作工程を追っていきながら、<sup>たんきん</sup>鍛金の技術を見ていきましょう。

## 1 構想・作図 どのような作品を作るか考えます。

## 2 <sup>じがね</sup>地金（材料）作り

1. 金属を溶かします
2. 溶かした金属を高温の湯の中の型に流し込んで固めます（「湯床吹き」といいます）



## 3 <sup>つちの</sup>金槌延べ（<sup>うちの</sup>打延べ）

- 2 でできた地金を<sup>かなづち</sup>金槌でたたいて、平らにします



## 4-1 <sup>つちあ</sup>金槌上げ（<sup>あ</sup>打上げ）

1. <sup>ふち</sup>縁をたたかずに、<sup>じがね</sup>地金の内側をたたいて厚みをうすくします。





みよし まさ とよ

## 三好 正豊さん

大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者

日本工芸会 / 正会員

大阪芸術大学工芸学科 / 客員教授

1951 年 大阪府大阪市に生まれる

1970 年 大阪市立工芸高校金属工芸科 卒業

1971 年 東京 はやかわとくた ちろう 早川徳太郎氏に師事する

1974 年 京都 たなかしやうめい 田中秀明氏に師事する

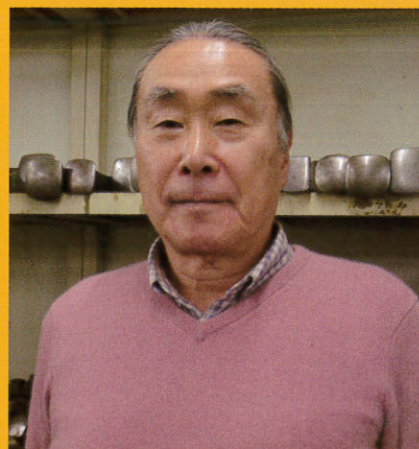
1999 年 第 46 回日本伝統工芸展 東京都知事賞（文化庁蔵）  
（以降入選多数）

2001 年 第 48 回日本伝統工芸展文部科学大臣賞（文化庁蔵）

文化庁派遣芸術家在外研修制度で 1 年間ミャンマーにて研修を受ける

2006 年 紫綬褒章受章、大阪芸術大学工芸学科客員教授に就任

2014 年 大阪府指定無形文化財「鍛金」保持者に認定



## 4-2 焼きなまし

2. 地金はたたくと硬くなるので、  
その都度高温の炎で熱して  
やわらかくします。

1 と 2 の作業をくりかえして、  
器の形にします



## 5 仕上げ

1. うつわ 器の表面を金槌で打ち上げます  
（「仕上げ打ち」といいます）  
2. ちやくしよくえき 着色液の中で作品を煮込みます  
（「煮色仕上げ」といいます）

## 6 完成

金属の性質をよく理解し、さまざまな道具を  
使い分けて、作品ができあがります



ゆどこぶ し ぶいちつちあげかき  
「湯床吹き四分一鍾上花器」



## 三好正豊さんへインタビュー

### 工芸の世界へ入ったきっかけ

私の幼少時代は畳屋さん、ブリキ屋さんとか周りに職人さんたちの仕事を目にする機会がありふれていましたので、自然と職人さんに憧れを持っていました。高校進学時に父が金属工芸の会社勤めということもあり工芸高校の金工の道に進み、それが性格に合っていたのか、現在まで楽しんでやっています。

### 金工（鍛金）の魅力について

金属の塊や板を金鋸でたたいてのばしたり縮めたりして色々な形に変えられ丈夫なところ。

金工品に限らず工芸品は使う人によって時と共にその人独特の味わいが出てきます。丁寧に愛おしく使えば唯一無二の雰囲気を感じ、作り手には到底出せない美しさです。特に金工は壊れにくいから一生楽しめますよ。昨今「手入れを楽しむ」余裕がなくなりつつある生活、新型コロナウイルス感染症が流行し、外出が難しくなった今、身の回りにある工芸品に目を留めてみてはどうでしょう。

### 作品制作の時に大切にしていること

私の師は省力化で忘れ去られようとする代々受け継がれてきた伝統技法を守り、弟子に伝えることを生き甲斐とされていたので、労力を惜しまずできるだけ伝統技法での制作を心がけています。



たんおうどう きりばめぞうがんろうながしみずし  
「鍛黄銅切嵌象嵌蠟流水指」

### 大阪で制作されている理由

強いて言えば大阪で生まれ育ったからでしょうか。  
「すきやねん大阪」かな。

### みなさんへのメッセージ

将来お仕事を決めなくてはなりませんね。私の様に好きなことを仕事にすれば、趣味や娯楽のために我慢して働かなくてもいいですよ。でも好きな事と言っても仕事を趣味にまでするには大変ですが命がけで3年もすれば仕事が面白くてたまらなくなります。  
「好きこそ物の上手なれ」です。

## 日本工芸会の活動

日本工芸会は、伝統工芸の技術を駆使して創作活動を行う工芸作家の団体です。「日本伝統工芸展」は、毎年秋から冬にかけて全国を巡回して開催しています。ここには各地の工芸家が、伝統の技を重んじながら、今に生きる工芸作品を出品し、鑑審査に合格したものだけが展示されます。また、春から夏にかけて陶芸や染織など分野ごとの「部会展」、あるいは東日本、東海、近畿など地域ごとの「支部展」も、さらに新しい命を伝統工芸に吹き込んでくれる人々を発見し、励ますために、日本伝統工芸の名のもとに開いています。さらに、日本工芸会では、会員を対象に、人間国宝の方々による各技法の研修会を開き、その技の正しい継承を求めています。

日本工芸会ホームページ  
<https://www.nihonkogeikai.or.jp/>



## 日本工芸会近畿支部の活動

日本工芸会近畿支部は、京都、大阪、滋賀、奈良、兵庫、和歌山の2府4県に在住して伝統工芸の創作活動を行っている工芸家の団体です。現在、毎年春に「日本伝統工芸近畿展」を公募展として、京都や大阪などで開催しています。展覧会場では、会員による列品解説や、受賞者自ら作品制作にあたっての思いや制作過程のこだわりなどを語る「受賞作家が自作を語る」などの普及啓発事業を実施しています。また、「日本伝統工芸展」の付帯事業として「伝統工芸こども鑑賞コース」を実施しています。伝統工芸を支える技術を紹介するパンフレットの作成や学校へ出向いて行う出前授業、展覧会場で行う特別解説など、次代を担うこどもたちを対象に伝統工芸の世界の一端に触れてもらえるよう創意工夫を重ねています。

日本工芸会近畿支部ホームページ  
<https://nihonkogeikaikinki.jp/>



発行：日本伝統工芸展大阪展実行委員会

〒604-8183 京都府京都市中京区高倉三条上ル

京都府京都文化博物館内 公益社団法人日本工芸会近畿支部内

TEL. 075-252-5205 FAX. 075-252-2177

発行日：令和3年（2021）11月23日

印刷：株式会社近畿印刷センター



令和3年度文化庁補助事業